

令和6年度探究的な学びを中核とした 「学びの変革」カリキュラム研究開発事業		
先進的モデル地域：三原市立大和中学校区		
連携地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
三原市立大和小学校	9	161名
三原市立大和中学校	5	95名

(R6.1.2.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

自立した学習者を育てるカリキュラム開発
～「探究×つながり」による新たな価値を創造する資質・能力の育成を通して～
自立した学習者の姿とは、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる姿とする。

(2) 特色

探究 × つながり

(3) 系統的に育成を目指す資質・能力

知識・技能
言語能力 (伝える・聞く)
情報活用能力 ※
主体性・協働性 ※
自己理解・他者理解 ※
※は、令和6年度にルーブリックの見直しを実施したもの

(4) 研究内容の概要

- 探究的な学びを中核としたカリキュラム開発
 - 自立した学習者の姿を表す資質・能力のルーブリックの見直し
 - 「情報活用能力」に関わる総合的な学習の時間と各教科等の関連をまとめたカリキュラムマップおよび各教科等の具体の作成
 - ひと・もの・ことを共有するための単元構想シートの作成
- PBLの考え方を取り入れた総合的な学習の時間の単元開発
 - 小学校第4学年
 - 探究テーマ：創造
 - 単元名：「大和認定こども園のみんなをもっと楽しく、笑顔で元気にしよう」
 - 中学校第1学年
 - 探究テーマ：地域創生
 - 単元名：「米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう」

2 実践事例

- 「情報活用能力」に関わる総合的な学習の時間と各教科等の関連をまとめたカリキュラムマップおよび各教科等の具体の作成について

次期学習指導要領に関わる有識者検討会議において、「情報活用能力の向上とそれによる探究的な学びの充実を一体的に考えていくべき。」と述べられている。これを受けて、本中学校区では、育成を目指す資質・能力の情報活用能力のルーブリックを見直した。具体的には、「育成を目指す資質・能力

を踏まえた『単元の評価規準』の作成のポイント²⁾の「情報の収集」「整理・分析」の記述を参考に、本中学校区の児童・生徒の実態に合わせて作成した。また、事例⁹⁾を参考に、総合的な学習の時間および各教科等の「情報の収集」「整理・分析」を行っている学習場面を整理した。

図1に示すカリキュラムマップと図2に示す各教科等の具体の作成の目的は、総合的な学習の時間を中心に情報活用能力が育成・発揮されるように、総合的な学習の時間および各教科等の授業の中で情報活用能力が発揮される場面を整理し、生徒がこれまで発揮してきた情報活用能力の姿を教員同士で交流し、授業に生かすことである。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
単元名	米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう ～自分たちは大和町とどのように関わっていけばいいの？～									
内容	商品開発【1学期】 *生活の中で身近な商品・大和町のためにどんなことをして貢献しているか *大和町が誇りに上った状態とは？ *どんな商品が手にとってもいいものか？ *どんな商品が手にとってもいいものか？	ポイントの整理【2学期】 *販売ポイントに向けて、どんな準備をすればいいか？ *販売ポイントに向けて、どんな準備をすればいいか？ *販売ポイントに向けて、どんな準備をすればいいか？ *販売ポイントに向けて、どんな準備をすればいいか？								イベント実施【3学期】 *ポイント整理 *販売ポイント整理 *販売ポイント整理 *販売ポイント整理
資料集	【資料集】商品開発に関する資料をまとめる。課題解決に向けて情報活用能力を高める。									
評価	【評価】商品開発の過程における情報活用能力の発揮状況を評価する。									
教科	総合的な学習の時間									
単元										
教科										
単元										

図1 カリキュラムマップ (抜粋)

学習目標

道具・肥料の特徴を整理し、自分の栽培目標を達成するために折り合いをつけて最適な物を選択することができる。

整理・分析の型

10メリット・デメリットの視点で整理・分析する

整理・分析の具体

		誘引の紐・肥料の選択肢のメリット(O)・デメリット(X・△)			
		社会	安全	環境	経済
誘引の紐	ワイヤー入りビニル紐	○作業がしやすい		△繰り返し利用できるが、外れた場合に直すことができない。	中学校1年生であるため、経済的な。
	麻紐	△作業がしづらい		○外れても土に還すことができる。	
肥料	有機質肥料	○ゆっくり長く効く ○自作できる ×速効性はない ×匂いがある。	○オーガニック野菜を栽培できる。	○天然由来であるため、土壌の微生物の活動を活性化し、土壌の改善をする。	
	化学肥料	○素早く効く ×効果が続く期間は短い ○匂いが少ない。			

上記のような表を作成し、栽培目標を達成するために折り合いをつけて最適な物を選択する。

図2 各教科等の具体 (抜粋)

- ひと・もの・ことを共有するための単元構想シートの作成

本中学校区では、これまで地域の多くの方や施設にお世話になりながら教育活動を進めてきた。しかし、その教育資源を共有できていないこと、その学年での取組内容を教員間で共有できていないこと、そして、どのサイクルで評価項目を見取るのか十分に計画できていないという課題があった。そこで、これらの課題を解決するために、図3に示す単元構想シートを作成した。この単元構想シートは、年度当初と年度終わりで年間2回作成する。1回目は、探究の過程のどの場面で、どの項目を見取るのかを考えることで、指導場面と評価規準をより具体的にすることができる。また、前年度までに作成したものの取組内容および教育資源を見返すことで、必要となる地域の方等と連携を年度当初からとることができる。そして、2回目は実際にどのように学習が進んだのか、どの場面で、どの項目を見取るのか、さらにはどのような評価規準が適切であったのかをまとめとして作成する。

1				
責 月	5	6	7	8
内 容	商品開発【15時間】 ・今年のテーマは地域創生、大和町のためにどんなことをして貢献していきたいかな？ ・大和町が盛り上がった状態とは？ ・どんな人に大和町や米粉のことを知ってもらいたいかな？ ・どんな商品が手に取ってもらえるのかな？			
手 立 て	・三原市や大和町の人口などのデータを示す。 ・増田製粉さんからの依頼で取り組みを始める。 ・空港で実施したアンケート結果から、開発を進める商品を「大人受け」と「子供受け」の座標軸を用いて整理・分析する。			
課 題	5/6/7			
講 義	8-2 9-2			
こ の と の こ ろ	増田製粉株式会社：商品開発の依頼元 地域法人おせっかいさん：地域人材、施設と学校の間のコーディネート 広島空港のお店：ターゲット・コンセプト決定のためのアンケートへのご協力			

図 3 単元構想シート（抜粋）

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

大和中学校の職員対象アンケートの結果を表 1 に示す。また、大和中学校の生徒対象アンケートの結果を表 2 に示す。

表 1 職員対象アンケート (R07.2実施) の結果

質問項目	肯定的 回答率 (%)
1 前年度と比較して、探究的な学びを意識して、総合的な学習の時間を実施していますか？	100
2 生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか？	70
3 あなたは、総合的な学習の時間で「課題の設定」の指導と評価ができていますか？	60
4 生徒は、総合的な学習の時間で「課題の設定」をすることができていますか？	40

表 2 生徒対象アンケートの結果

質問項目	肯定的回答率 (%)	
	7月	12月
授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいます。	65.9	81.6

教員の授業改善の意識を高め、総合的な学習の時間を中心に授業改善を進めてきた結果、本中学校区が目指す自立して学習に取り組もうとしている生徒が増えていることがわかる。

(2) 課題

表 1 の項目 2 と表 2 より、生徒が考えている姿と教員が考えている姿に差があることがわかる。これは、教員が生徒に求める姿を生徒と十分に共有できていないこと、そしてルーブリックをもとに適切な評価をフィードバックできていないことが原因と考える。また、表 1 の項目 3・4 より、課題の設定場面で十分な指導と評価ができておらず、生徒に課題を設定する力を育成することができていないことがわかる。これは、依頼型の探究のスタートに依存していたことが原因であると考えられる。

今年度の取組を踏まえ、本中学校区では次年度の改善点を次の 3 点に整理した。

① 児童・生徒の将来の姿をより具体的に考え、そこから中学校

- 卒業段階までに育ってほしい姿を考えること
- ② 児童・生徒一人ひとりが自立した学習者になれるように、総合的な学習の時間の系統性を整理すること
- ③ 探究的な学習の各過程の中で、児童・生徒の姿を適切に評価し、指導すること

(3) 今後の改善方策等

令和 6 年度の途中から浮かびあがってきた課題をもとに、大和中学校区では、次年度、次の 4 点の取組を実施する予定である。

① 特色および研究テーマの変更

本中学校区の児童・生徒は、中学校卒業後に高等学校に進学する割合が高い。このことを踏まえて、キャリア教育のゴールの姿および高等学校の総合的な探究の時間の自律的な探究の考え方から、自立した学習者に成長するまでの過程で児童・生徒には、自分の好きなこと・得意なことを軸に社会的・職業的に自立してもらいたいと考えた。そこで、研究の特色を「探究×自律」とする。また、研究テーマを「自立した学習者の育成～探究的な学びを中核としたカリキュラムの開発を通して～」とする。

② 資質・能力のルーブリックの整理と共有

児童・生徒に身に付けて発揮してもらいたい資質・能力のルーブリックの整理を年度末に行い、新年度から新しいルーブリックを教員と児童・生徒で共有する。

③ 総合的な学習の時間の系統性の整理

本中学校区の次年度の総合的な学習の時間の系統を表 3 に示す。児童・生徒一人ひとりが、自律的な探究を進めながら、自立した学習者になれるように探究テーマや学習形態、課題の設定方法を徐々に変化させていく。

表 3 総合的な学習の時間の系統

	探究テーマ	学習形態	課題の設定
小3	地域	学年探究 ※部分的な グループ探究	教師の指導を受けながら課題を設定 ※教師の意図を含んだ課題の設定から、児童・生徒による課題の設定に徐々に移行
小4	人		
小5	産業		
小6	夢、未来		
中1	地域創生		
中2	職業	グループ探究	
中3	社会貢献	個人探究	生徒自身が自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見

④ 中学校 3 年生の個人探究

表 3 に示すように、中学校 3 年時では個人探究を実施する。これまで中学校 3 年生の総合的な学習の時間の「まとめ・表現」ではレポートによる提案型で終わることを定型としていた。今後は、この「まとめ・表現」の中に各生徒の自分の好きなこと・得意なことが生かされる形になるように指導していく。

4 参考・引用文献

- 1) 文部科学省：「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会論点整理」2023. 9. 18
- 2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター：「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】・【中学校 総合的な学習の時間】」「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 総合的な探究の時間】」
- 3) 文部科学省：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」